

【第1部会】個々の成果指標及び目標値に関する意見

《環境・アメニティ》

	成果指標	現状値	目標値	
			H28	H32
施策1	市民一人あたりの温室効果ガス排出量	4.12t-CO ₂ (H21)	3.53t-CO ₂	3.19t-CO ₂
	地球温暖化対策など、環境の向上に熱心に取り組んでいるまちだと感じる市民の割合	38.3%(H24)	42.0%	46.0%
	節電・省エネなど、ライフスタイルの転換につながる行動を積極的に実践している市民の割合	23.1%(H24)	25.0%	30.0%
施策2	市民1人1日当たりのごみの排出量	948g(H23)	897g	858g
	ごみ総排出量に対する最終処分比率	7%(H23)	6%	5%
	日常生活でのごみの減量に取り組んでいる市民の割合	77.9%(H24)	80.1%	81.5%
施策3	緑化協議により創出された緑化面積(累計)	47.1ha(H23)	90ha	130ha
	緑や水辺などの自然が身近にあると感じる市民の割合	68.3%(H24)	70.0%	72.0%
	自然環境の保全活動に取り組んでいる市民の割合	29.0%(H24)	31.0%	33.0%
	市内の景観(まちなみ、自然等)に魅力を感じる市民の割合	48.4%(H24)	50.0%	60.0%

【部会における意見】

●例えば市民一人あたりの温室効果ガス排出量4.12t-CO₂とは、どのくらいの程度を表した数字なのか説明が必要で、目標値についても設定の根拠が示さなければ、市民は納得しにくい。

●成果指標「自然環境の保全に取り組んでいる市民の割合」について、環境保全は自然だけではないので、より全体に係る指標になるのではないかと。

●成果指標「緑や水辺などの自然が身近にあると感じる市民の割合」は、市内でも居住地によって感じ方が違うのではないかと。例えば、市内でもよいと言われている地域の数値を努力目標として、何年後かにはみんながその数値になるようにといった、何か評価するものがあると判断しやすいのではないかと。

《都市基盤・交通》

	成果指標	現状値	目標値	
			H28	H32
施策1	生活道路が整備され、安全で生活しやすいと感じる市民の割合	—	—	—
	まちなかに緑や開放的な空間が感じられ、快適な生活ができていると感じる市民の割合	—	—	—
施策2	都市の魅力が向上し、都心に滞在する時間が増えたと感じる市民の割合	—	—	—
	地域の特性を生かしたまちづくりがされていると感じる市民の割合	—	—	—
施策3	都市計画道路の整備率	45.8%	49%	51%
	日常生活においてストレスフリーな移動を実感している市民の割合	—	—	—
	駅前機能及びアクセス性の強化により、交通の利便性が高いと感じている市民の割合	—	—	—

【部会における意見】

●施策1の成果目標について、市民アンケートに基づく市民満足度だけでなく、二酸化炭素削減率や緑化率など統計データ等から見た客観指標があってもよい。

●施策2の成果目標について、魅力的な都心・副都心としての感じ方を、滞在時間に置き換えて測ってよいのか、悩みどころである。

●施策3の成果目標について、ストレスフリーという言葉ではなく、もう少し分かりやすい表現を用いた方がよいのではないかと。

《産業・経済》

	成果指標	現状値	目標値	
			H28	H32
施策1	経営状況が安定している企業数(法人市民税法人税割額の納税義務者数)	10,255社(H22)	11,549社	12,501社
	耕地面積	3,760ha(H23)	3,534ha	3,364ha
	普段の買物を主に市内商店(街)で行う市民の割合	81.8%(H24)	83%	85%
施策2	法人市民税法人税割調定額	18,741百万円(H22)	21,105百万円	22,845百万円
	企業誘致・新規立地件数(平成26~32年度累計)	61件(H20~H24累計)	40件(H25~H28累計)	40件(H29~H32累計)
	市内の産業に活力を感じる市民の割合	30.1%(H24)	36%	42%
施策3	入込観光客数	2,131万人(H22)	2,748万人(調整中)	3,000万人(調整中)
	ハローワーク大宮、浦和管内就職率	18.6%(H23)	21%	23%
	市内事業所における従業者数	500,855人(H21)	518,000人(H26)	515,000人(H31)
	就労環境の向上を感じる市民の割合	16%(H24)	18%	20%

【部会における意見】

●施策1の成果目標の「耕地面積」について、目標値を減少する設定としているが、地場産業を守り育てることを記述するならば、それと連動した数値で表しておくべきだ。

【第2部会】個々の成果指標及び目標値に関する意見

《健康・福祉》

	成果指標	現状値	目標値	
			H28	H32
施策1	子育てしやすいまちだと感じる市民の割合	64.9%(H24)	70%	75%
	地域の子ども・青少年が健全に成長していると感じる市民の割合	70.5%(H24)	75%	80%
	合計特殊出生率について、本市と大都市平均との比較(本市/大都市平均*100)	0.98(H23)	1.0	1.1
施策2	困った時に相談できる人が身近にいると感じる市民の割合	68.7%(H24)	70%	72%
	地域・ボランティア活動や趣味を楽しむ等、生きがいをもって活動している高齢者の割合	60.0%(H24)	63%	66%
施策3	地域の中で、障害に対する理解が深まってきていると感じる市民の割合	40.4%(H24)	60%	80%
	施設入所支援支給決定者数の削減率(基準年:17年)	2.6%(H23)	12%	14%
	入院(一年未満)した精神病患者の退院率	68.2%(H23)	80%	85%
施策4	障害者の一般就労者数	140人(H23)	150人	150人
	自分が健康だと感じる市民の割合	80.2%(H24)	80.2%	80.2%
	「かかりつけ医」を持っている市民の割合	61.6%(H24)	65%	70%
	食品関係営業者の衛生向上率	50%(H24)	55%	55%

【部会における意見】

- 成果目標から見えてくる高齢者像に偏りがあるのではないかと。高齢の方々の多様な生活像は必要ではないか。
- 成果指標に疑問を感じる。施設入所数を減らしたいものと理解できるが、その一方で、一般就労数がわずかに増えている。
- 退所からいきなり一般就労というのはギャップが大きいので、身近な地域の中に働く場が必要なのではないだろうか。
- かかりつけ医の有無を重視すべきだと思う。介護などの最初の入口としても、頼りになる医師が身近にいる意義は大きい。
- 成果指標の「障害者の一般就労者数」を「障害者の新規一般就労数」としたらどうか。
- 成果指標の「食品関係営業者の衛生向上率」が分かりにくい。

《教育・文化・スポーツ》

	成果指標	現状値	目標値	
			H28	H32
施策1	全国学力・学習状況調査、「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童生徒の割合	89.2%(小6)(H24) 74.3%(中3)(H24)	89.4%(小6) 77.2%(中3)	89.5%(小6) 80.1%(中3)
	全国学力・学習状況調査、実施科目の合計点について、本市と大都市平均との比較	—(小6)(H25) —(中3)(H25)	—(小6) —(中3)	—(小6) —(中3)
	地域の子ども・青少年が健全に成長していると感じる市民の割合	70.5%(H24)	75%	80%
施策2	公民館主催事業の延べ参加者数	275,891人(H23)	281,400人	289,680人
	図書館における市民一人当たり貸出点数	8.6点(H23)	9.1点	9.3点
	生涯学習に取り組んでいる市民の割合 そのうち生涯学習を通じて生活が充実したと感じる人の割合	38.6%(H24) 93.7%(H24)	40.0% 94.5%	45.0% 95.0%
施策3	成人の週1回以上のスポーツ実施率	37.4%(H24)	55%	70%
	児童・生徒の週1回以上のスポーツ実施率(学校の体育の授業を除く)	86.6%(小5) 83.6%(中2)	調整中	93%(小5) 90%(中2)
施策4	市民(20歳以上)の年1回以上の文化芸術活動参加率	51.5%(H24)	65%	80%
	市民(20歳以上)の週1回以上の文化芸術活動参加率	6.4%(H24)	8%	10%
	市のイメージとして「文化的なまち・芸術のまち」と答えた市民の割合	13.7%(H24)	18%	25%

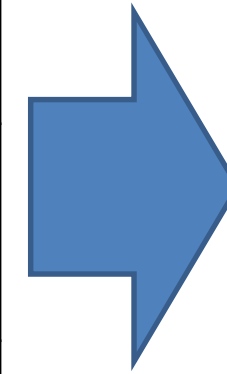
【部会における意見】

- 数値にすることは難しいことだが、成果目標に「徳育」に関するものを掲げられないか。
- 「公民館主催事業の延べ参加者数」が成果指標となっているが、事業を増やせば生涯学習は発展するのか。行政が考える事業を増やすことで目標達成というのはいかがなものか。
- 生涯学習の成熟に向かう方向性の中で、公民館の活用には矛盾がある。主催事業の中身が見えない中で参加者数を問うているので、異質なものが混ざっている印象がある。
- 「文化的なまち・芸術のまち」と答えた市民の割合とあるが、「文化」と「芸術」は異なるものであると考える。施策の目標は、市民を芸術家にするのではなく、文化人とするのではないかと。
- 文化芸術活動に参加するかどうかは、個人の信条によるところも大きいと考えられるので、「文化芸術活動参加率」を成果指標とするのはいかがなものか。
- 文化芸術活動参加率などではなく、文化芸術イベントの開催回数などでもよいのではないかと。

【第3部会】個々の成果指標及び目標値に関する意見

《安全・生活基盤》

	成果指標	現状値	目標値	
			H28	H32
施策1	防災訓練の参加人数	12,405人(H24)	14,500人	17,000人
	災害に備え、家庭で備蓄等の対策を取っている市民の割合	62.4%(H24)	69%	73%
	住宅火災の出火率(出火件数/人口×1万人)	1.04件	1.01件	0.97件
	住宅火災1件あたりの焼損面積	27.2㎡	26.3㎡	25.3㎡
	応急手当実施率	38.4%(H23)	41.0%	44.0%
施策2	交通事故死者数	23人(H24)	17人	17人
	刑法犯認知件数	16,328件(H24)	14,300件	13,100件
	犯罪が少なく、安心して暮らせるまちと感じている市民の割合	67.2%(H24)	70%	73%
施策3	安全な水道水を安定的に利用できると感じる市民の割合	84.6%(H24)	87%	90%
	下水道普及率	89.0%(H23)	92.2%	94.0%
	住宅の耐震化率	86%(H23)	90%(H27)	95%

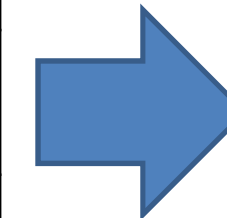


【部会における意見】

- 成果目標について、因果関係を考えることが大切である。例えば「防災訓練の参加人数」とあるが、災害リスクの強弱など地域差があり、一定時間内に体制が整う自主防災組織の割合など検討してはどうか。
- 成果指標に「水の安定的な供給」とあるが、水のおいしさを指すならば、民間のミネラルウォーター会社と競う必要はない。化学物質の濃度など行政の努力で結果を出せるものにした方が良いのではないか。
- 「下水道普及率」の目標値が低く感じるが、市街化区域においては下水道を早急に普及してもらいたい。

《交流・コミュニティ》

	成果指標	現状値	目標値	
			H28	H32
施策1	身近なところで人権が尊重されていると感じる市民の割合	65.7%(H24)	67%	70%
	社会全体で見た場合、男女の地位が平等と感じる市民の割合	45.3%(H24)	47%	50%
施策2	地域の活動・交流が活発に行われていると感じる市民の割合	46.9%(H24)	47.3%	47.7%
	地域の活動に参加している市民の割合	36.5%(H24)	36.9%	37.3%
施策3	国籍などが異なる人達の文化の違いを理解しようとしている市民の割合	—	—	—
	外国人の受入体制が整っていると感じる市民の割合	—	—	—



【部会における意見】

- 成果指標「男女の地位が平等と感じる市民の割合」について、目標値はもっと高く設定してもよい。
- 成果指標「男女の地位が平等と感じる市民の割合」の現状値について、男女別に示し、目標値についても男女別に示すかどうか検討すべき。
- 成果指標「人権が尊重されていると感じる市民の割合」について、人権とは何か伝わってなければアンケート結果は高くなる可能性があり、必ずしも現実を表しているとは言えないのではないか。
- DVIに関する調査結果などを活用しながら、DVIに関する指標も盛り込んでどうか。
- 成果指標「外国人の受入体制が整っていると感じる市民の割合」については、市民アンケートではなく、サービスの客体である外国人市民に聞いた方が的確ではないか。
- 市として、市に在住する外国人の方々を積極的に活用したいのか、共に生活できるレベルを目指すのか、どう考えているかで成果指標の設定が変わってくる。